

かわさきしがいこくじんしみんだいひょうしゃかいぎ
川崎市外国人市民代表者会議

だい 1 1 期 だい 2 年 だい 4 回 だい 1 日
(第11期 第2年 第4回 第1日)

ぎじろく
議事録

1 日時 2018(平成30)年1月21日(日) 午後2時～5時

2 場所 川崎市国際交流センター

3 出席者

(1) 代表者 17人

葉 元聡、金 スンオグ、タカハシ ライゼール ラモス、レ ベト ギア
カン、幕内 嘉雯、河本 ファビオ良則、スタント イルワン、河 相宇、
ホサニ アハマド ユースフ、ディットマー ダニエラ、韓 簫、ケゼングア
エドワード ムウインピ、キースタ ケーシー ジェイ、蔣 香梅、
ヴィラマー ジェリー、ヒラチャン アスカ、サリ アビシエク

(2) 事務局

鈴木 室長、小川 担当課長、須藤 課長補佐、丸橋 職員、榎本 職員、高橋
専門調査員

4 傍聴者 1人

5 会議次第(公開)

(1) 開会のあいさつ

(2) 事務局説明

(3) 議事

(4) 事務連絡

(5) 閉会

【全体会】

ケゼングア副委員長「それでは、これから川崎市外国人市民代表者会議2017年度、
第4回第1日を開催する。みなさん、明けましておめでとうございます。今年
もよろしくお願ひします。今日は、牟さん、ヘイさんとオクサナさんから欠席
の連絡があった。それでは、まずは本日の日程と配布資料の確認について、

事務局から説明をお願いする。」

(事務局須藤課長補佐が説明。)

ケゼンダ副委員長「次に、前回会議のまとめについて、事務局から説明をお願いする。」

(事務局高橋専門調査員が資料1に基づき説明。)

ケゼンダ副委員長「何か質問はあるか。(なし)それでは、議事に入る。最初の議事は年次報告についてだ。事務局から説明をお願いする。」

(事務局丸橋職員が資料2、2-1に基づき説明。)

ケゼンダ副委員長「何か質問はあるか。(なし)では、次に提言の取組状況についてだ。事務局から説明をお願いする。」

(事務局丸橋職員が資料3に基づき説明。)

ケゼンダ副委員長「何か質問はあるか。(なし)では、10分間の移動・休憩をはさんで部会審議に入る。」

【情報・社会教育部会】

キースタ部会長「それでは、情報・社会教育部会を始める。まずは事務局から資料説明をお願いする。」

(事務局丸橋職員が資料4、4-1に基づき説明。)

キースタ部会長「ここまでで何かあるか。」

ディットマー委員「内容については何も問題ないが、文言の部分でいくつかある。

『住みたい』『働きたい』とあるが、あまり限定しないようにもう少し柔らかい表現にして欲しい。」

サリ委員「『コミュニティやネットワークを持たない人が増える』という部分だが、はたしてそういえるのか。」

ヒラチャン委員「ここは『たとえば』とあるので、例示だ。ポイントは、そうしたものを持っていない人が気軽に相談などができなくて困るという部分だろう。」

キースタ部会長「この部分を削除した方がよいと思う人は手を挙げてください。

(4人)残した方がよいと思う人は手を挙げてください。(4人)」

幕内委員「実際に困っている人はいると思う。」

ヴィラマー委員「削除ではなくて文章の修正がよいのではないか。」

スタント委員「コミュニティやネットワークがあっても、すべての情報が伝わったり、それだけで問題が解決されるわけではないので、その部分に注意して修正して

はどうか。それと、2ページの『住み続けたい』の部分はそのあとの指針の表現を使って『住みやすい』にしてはどうか。」

ディットマー委員「その方がよい。」

キースタ部会長「賛成の人は手を挙げてください。（ 全員賛成 ）」

サリ委員「4ページに『摩擦』という表現があるが、日本のルールを知らないから摩擦が起こるわけではない。文化が違うから摩擦が起こる。」

キースタ部会長「『文化の違いから』と書いてある。」

レベト委員「前後の文章をきちんと読めばちゃんと書いてあるので、ここままでよいと思う。」

ディットマー委員「3つある。5ページの『理解を深める』はオリエンテーションでは詳しい説明はできないので『周知する』がよい。最後の行の『できることがたくさんある』は漠然としているので、『行動範囲が広がる』のようにもう少し具体的な方がよい。6ページのマナーのところで、『夜中は騒がない』は偏見があるように感じる。」

ヒラチャン委員「『行動範囲が広がる』という表現だと、『行けるところが増える』という意味に限定して理解されてしまうのではないか。ここはいろいろなことにチャレンジできるようにするという意味だろう。」

サリ委員「7ページの『使用する言語』は『開催する言語』の方がよいのではないか。」

レベト委員「7ページの『できれば』という部分は、もう少し強く『なるべく』にして欲しい。」

キースタ部会長「『夜中は騒がない』についてはどうか。」

幕内委員「日本人市民が知って欲しいことという意味なら、町内会についての紹介はどうか。」

ヒラチャン委員「町内会はほかのところに書いてあった。」

スタント委員「『夜中は騒がない』という例は、私はそれほど違和感がない。外国人だからということではなく、一般的なマナーという意味だろう。」

キースタ部会長「たしかに、日本だけではないが日本は厳しいかもしれない。」

ディットマー委員「ドイツはもっと厳しいかもしれない。」

ヴィラマー委員「電車の中のマナーにしてはどうか。」

レベト委員「電車内で通話しないがよい。」

キースタ部会長「では、電車内の通話マナーに変更ということで賛成の人は手を挙げ

てください。（ 全員賛成 ）」

サリ委員「8 ページのところの『工夫』は今あるものの改善ではなくて、新しい提案なので『配慮』がよい。」

ディットマー委員「私は、違和感はない。」

事務局丸橋職員「どちらでも問題ない。」

レベト委員「最後の『参加者からのフィードバックを参考に』はもう少し強い表現にして欲しい。」

キースタ部会長「ほかに何かあるか。（ なし ）それでは、時間も超過しているのでここまでとしたい。もし、まだ何かあれば事務局まで連絡をお願いする。」

【地域生活部会】

金部会長「それでは、地域生活部会を始める。まずは事務局から説明をお願いします。」

（事務局高橋専門調査員が資料について説明。）

金部会長「それでは、文言の確認のため読み上げる。まずは災害時における多文化共生と外国人支援について、資料5-1だ。（ 資料5-1を読み上げ ）事務局から補足説明をお願いします。」

（事務局高橋専門調査員が資料5-1について補足説明。）

金部会長「それでは、何か質問や意見はあるか。」

ケゼンガア副委員長「内容に関してはとくに意見はないが、個人的にはもう少し漢字が多い方が読みやすい。」

金部会長「事務局どうか。」

事務局高橋専門調査員「表記についてだが、役所内での文書の表記ルールがあるのでそれを守る必要がある。漢字が多すぎると逆に読みにくいという人もいますので、バランスは難しい。ルールをふまえて、事務局で検討するという対応でよいか。（ 異議なし ）」

河委員「『受付シート』という名称はこのままか。『運営協力受付シート』のように何のためのシートなのか名前からわかる方がよいのではないか。」

金部会長「ツールの名称についてはこれまでも確認してきたはずだが、他の人は何かあるか。」

ホサニ委員「避難所はみんなで協力して運営するものだが、『運営協力』という名前にしてしまうと少し強制的に協力しなければいけないように感じる。今

のままでよいと思う。」

河本委員「あくまでも自然に協力を呼びかけるようなものなので、今のままでよいと思う。」

河委員「名前だけだとイメージがつかみにくいかと思ったが、提言にシートを添付したりするのであれば今のままでよいと思う。」

金部会長「それでは、『受付シート』のままでよいか。（異議なし）ほかに何かあるか。」

葉委員「このシートは日本人には必要ないのか。それと、日本語ができる外国人にも不要だと思おう。」

事務局高橋専門調査員「これまで審議してきたことをふまえると、日本人には必要ない。また、日本語ができない外国人のためのものでもない。仙台や熊本の報告書などから見えてきた課題は、まず日本語ができるかどうかに関係なく、避難所をみんなで協力して運営していくということを知らない人は多いということだ。そして、日本語が話せる人に対しても、日本人の側が日本語が話せないだろうと思って声をかけないということだった。このシートは、避難所の運営について知ってもらうことと、日本人とコミュニケーションをとりやすくすることを目的としている。」

金部会長「今の説明について何かあるか。（とくになし）では、ここでいったん区切って保育の利用申請に移る。それでは資料5-2を読み上げる。（資料5-2を読み上げ）それでは、何か質問や意見はあるか。」

葉委員「1ページ目だが、生産年齢人口の減少とあるが、川崎市は若い人が増えているので川崎市の実態とはあっていないのではないか。」

金部会長「これは日本全体の傾向という意味だ。」

事務局高橋専門調査員「単純な住民人口の問題だけではない。川崎市に住んでいる人が、川崎市内で働いているとは限らない。たとえば、都内で働いているが、川崎市に住んでいるという人も多いただろう。だから生産年齢人口の減少という日本全体の傾向は無関係ではない。」

河委員「保育を利用している外国人のデータがあれば、載せるとよいのではないか。」

事務局高橋専門調査員「おそらく、そうしたデータはない。とくに外国につながる子で、保護者が外国籍という場合もあり難しい。」

タカハシ委員「1ページ目の最初だが、日本の話と川崎市の話が行ったり来たりし

ているのでわかりづらいのかもしれない。もう少し流れを整理できないか。それと、グラフのX軸とY軸にラベルを追加して欲しい。」

事務局高橋専門調査員「流れの整理は持ち帰って検討したい。ラベルの追加に関しては了解した。」

金部会長「提言の囲みの中で『日本語が苦手な』という表現があるが、『能力が十分ではない』の方がよいのではないか。」

事務局高橋専門調査員「あらためて確認はするが、文脈に応じて使い分けている。ただ、『能力が十分ではない』という表現はあまりよくないと思う。とくに、保育や災害関連では日常生活では使わないような難しい言葉が多い。それに対して『能力が十分ではない』という表現は、外国人の側の日本語能力に問題があるように読めてしまう。注意が必要だ。」

葉委員「保育の2ページ目だが『また、いくら利用したくても、まったく日本語ができない人が実際に保育サービスを利用するのは残念ながら難しいと思います』という文章があるが、この意味を確認したい。」

金部会長「これまでの審議の中で共有してきた考え方だと思う。たしか、葉さんが最初に発言したはずだ。今回の私たちの提言の対象を明確にする意味で入れている。ほかに何かあるか。(なし)もし、文章レベルで何かあれば個別に事務局に伝えて欲しい。事務局はできる範囲で対応、修正をお願いする。それでは、これで部会を終わりにする。」

【全体会】

ケゼンダ副委員長「それでは、全体会を再開する。それでは、部会報告を情報・社会教育部会からお願いする。」

キースタ部会長「基本的には前回から大きく変わっていない。すべては紹介できないが、今日は細かい文言や日本語の表現の部分を中心に議論した。」

ケゼンダ副委員長「何か質問や意見はあるか。(なし)では、私から質問だが、これまでの審議の中で提言に入れようと思っていて、結果的に入らなかったものはあるか。」

キースタ部会長「今日、議論したわけではないが、部会で審議した中ではウェブ上の情報の整理という問題は提言には入っていない。」

ケゼンダ副委員長「ほかにはないか。(なし)では、地域生活部会の報告をお願いする。」

金部会長「まず、災害時における多文化共生と外国人支援についてだが、内容に関わるような修正意見はとくになかった。前回からの変更でいうと、項目の3つ目に『2007年度提言の補足』というのが追加されている。次に、保育の利用申請についてだが、こちらについても修正意見はなしということになった。文章の細かい部分で、何か所か意味を確認したりしたが、修正にはならなかった。あとは、もう少し文章をすっきりさせた方がよいという意見があったので、それは事務局に任せて、次回確認することにした。」

ケゼンダ副委員長「何か質問や意見はあるか。」

キースタ部会長「資料5-2の3ページのところだが、多言語に対応した相談の機会という部分を少し説明して欲しい。」

金部会長「オープン会議の参加者からいただいた意見をもとに検討したものだ。ただし、オープン会議の時には保育園の見学や説明会を多言語対応して欲しいという意見だったが、私たちの審議ではそれは現実的ではないということになった。私たちの相談の機会というのは、あくまでも申請手続きのための相談の機会だ。また、多言語対応の窓口を常設するというのも難しいと考えたので、申請が集中する4月入所にあわせてというふうになっている。」

ケゼンダ副委員長「ほかに質問や意見はあるか。（なし）では、今日の議事は以上だ。事務局から事務連絡をお願いする。」

【事務連絡】

- ・ 次回の服装について
- ・ アンケートの提出について
- ・ ニュースレターの原稿について

ケゼンダ副委員長「次回はいよいよ第11期の最後の会議になる。日程は2月18日、場所はここ国際交流センターで開催する。これで、2017年度の第4回第1日の会議を終わりにする。お疲れさまでした。」